なかでも，三日町，六日町，本郷町では市が立ち，たいへんにぎわいました。今でも白鳳山公園には，本丸，二の丸，お茶屋場跡，馬場跡などが残っています。江戸時代の会津藩主保科正之は，瀬戸（愛知県瀬戸市）から水野源左衛門を召しかかえ，会津本郷焼の基礎（おおもと）を作りました。

▲向羽黒城跡

現在の会津本郷町は，昭和29年（1954年）に本郷町，玉路村が合併し，さらに，昭和31年には，川南村（今の北会津村）の一部（荒井，駅前，宗頤）が編入されてできたものです。

人口は昭和58年（1983年）ころから横ばいの状態となって，平成9年8月では6,673人となっています。

(3) 会津本郷町の土地の様子

町の南側は，標高700メートル以下の山地で大部分がしめられています。その面積はおよそ27平方キロメートルで，町全体のおよそ70パーセントにあたります。

町の東を南から北へ流れる阿賀川（大川）に，東の沢，西の沢，戸沢川が流れこんでいます。一方，西よりには氷玉川が流れています。

沢や川は，農業用水，工業用水，生活用水として大切な働きをしています。

そこで，川にそって集落ができ，まとまった田や畑が北へと広がっています。